

2018/02/13

ニュース&レポート

留守でも宅配受領、家事委託 「宅内」 商戦、カギ握るIoT鍵

染原 睦美 = 日経 xTECH / 日経コンピュータ

日経コンピュータ
NIKKEI COMPUTER

遠隔地から施錠・解錠できるIoT鍵「スマートロック」の市場が変貌しそうだ。留守中でも宅配や家事代行サービスを受けられるマンションが登場。米アマゾンやメルカリも参戦、サービスを「宅内」に引き込む競争が始まった。



スマートフォンで施錠・解錠するライナフのスマートロック「NinjaLock」。ドアに後付けできる

不動産管理などを手がけるライナフは2018年1月30日、「スマートロック」を全戸に配備した賃貸マンションを2月下旬から売り出すと発表した。スマートロックはスマートフォンを使って鍵を開け閉めする機能を備えたIoT（インターネット・オブ・シングズ）機器。ライナフはこれまで不在時に利用しにくかった各種サービスの提供事業者と連携して「サービスが入ってくる家」を打ち出した。

連携先は生鮮食品宅配サービス「パルシステム」を運営する生活協同組合パルシステム東京や、家事代行サービスを手がけるベアーズやタスカジなど5社。本来は利用者が留守にしているとサービスを受けづらかった。新マンションの居住者は不在時に、家の中に商品を置いてもらったり、家事を代行する担当者を家に入れたりできる。居住者の利便性が高まるだけでなく、連携先企業の人材不足や働き方改革にも一役買う。

ライナフは自社開発したスマートロック「NinjaLock」をマンションのエントランスと全36戸の玄関ドアに設置。各居室の玄関にはWebカメラも付ける。不在時にサービス担当者が入室するには、専用のコールセンターへの本人確認が必要で、居住者は入退室記録などをスマホで確認できる。

スマートロックはこれまで物理的な鍵をなくすという触れ込みで2014年以降、ソニー系のQrioや「Akerun」を提供するフォトシンスなどが市場を開拓してきたが、法人需要を主軸に展開している。ライナフのようにハードとサービスを組み合わせることで個人市場が拡大する見込みが出てきた。

サービス名(提供会社)	サービス概要
パルシステム(生活協同組合パルシステム東京)	生鮮食品の宅配
リネット(ホワイトプラス)	宅配クリーニング
honestbee(シンガポールのオネストビー)	コストコなどでの買い物の代行
タスカジ(タスカジ)	家事代行のマッチング
ベアーズ(ベアーズ)	家事代行

図 ライナフの「サービスが入ってくる家」に参画した宅内サービス
不在時でも家事が進む

メルカリやアマゾンも「宅内」に食指

シェアサイクルサービス「メルチャリ」を始めるメルカリは専用自転車に付けるスマートロックを出資先のベンチャー企業であるtsumugと共同開発した。メルカリの浜田優貴取締役は「ゆくゆくはメルカリで宅内に配送できるような鍵を検討していきたい」と出資理由を明かす。

スマートロックがサービスとつながる動きは世界で進む。米アマゾン・ドット・コムは2017年11月から不在時に宅内に商品を届ける「Amazon Key」を有料会員向けに提供。利用者は独自開発のスマートロックとWebカメラを購入すればサービスを受けられる。

米調査会社マーケッツ・アンド・マーケッツによれば世界のスマートロック市場は年約13%のペースで成長し、2023年に2017年比2倍の約3000億円に拡大する見込み。共働き夫

婦などを中心に利用が進み、国内でも市場が伸びそうだ。

出典：日経コンピュータ、2018年2月15日号 p.14
記事は執筆時の情報に基づいており、現在では異なる場合があります。

